



あっぱれ

第14号

編集・発行
顧問 中村 悠太

一心同体！全員野球！

公式戦初勝利、おめでとございます。町田市屈指の強豪校、南中学校相手に本当に良く戦いました。この試合を通して「頑張る」ということの本当の意味を君たちから教えてもらいました。頑張れ、頑張ろうと聞く和前向きでポジティブな印象を受けますがそうではありませんでした。コンスタントに相手に点を取られ良い当たりはあ

るものの野手の正面に飛んだり、相手に良いプレーが出たりと無失点のイニングが続きました。中々入らない点に焦ることなく必死に守り続けました。今回の試合のテ

ーマは「強気」でしたね。試合前に「どんな時も絶対に引くな。必ずチャンスは来る。我慢して我慢して流れが来たら一気にいくぞ」とミーティングで話すと「はいー！」と全員の声があつた良い返事が返ってきました。バッティングばかりの練習から守備練習が多めの内容に変更し基礎基本を徹底しました。試合中盤、ふとベンチに目をやるとベンチからはみ出している選手がたくさんいました。声はかれ、むせながら必死に仲間を応援して

いる姿がそこにはあつて「いたのです。外野手の頭を越すような打球もカットまでつなぐことを徹底し、長打になることはありませんでした。また、課題練習で行った安全ゴロ捕球もしっかりとできていましたね。内野手も速いゴロをさばきしっかりと送球することができました。先発投手が粘り強く投げ、試合終盤ついにその時が来ました。一点、また一点と入り連打が続き七点差をひっくり返しました。ベンチはお祭り騒ぎ、完全に小山中の流れになりました。ここからは予め決まっていた継投策を実行です。中継ぎ投手をマウンドへ送りま

した本当に良い顔をして強気で無失点に抑えました。キャッチャーも課題の低めのキャッチングもしっかりとできました。また好リードで投手陣を引っ張りました。最後は抑え投手をマウンドへ送りました。一点差の場面で本当に良く投げました。それぞれ役割を果たしました。怖くても投げた送球、競っている場面で上がったマウンドでの一球、押しつぶされそうな場面で勇気を出して「頑張る」と「プレーした気持ち」を忘れないようにしましう。最後、シートへゴロが飛んだ時、捕球した時、送球、ゲームセットと全てが今でも鮮明に心に残っています。「頑張る」とは辛いこと。チームスポーツでもプレーをする場面では孤独だしい人。それでも打てなくてもエラーしてもしそれをカバーしてくれる仲間がいる。苦しいことに耐え、必死にもがいた先にはこんなにも素晴らしいことがあることを覚えておいてほしい。個人個人が更に精神的にも肉体的にも強くなれ。そしてチームとして一心同体、全員野球で本当の意味でタフなチームになろう。